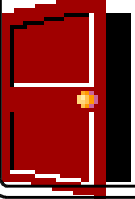


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年11月14日 文責 渡邊

教員による読み聞かせを行いました！

本校教員による読み聞かせが、11月4日(金)、7日(月)、8日(火)の3日間実施されました。子供たちの笑顔がとても嬉しく思いました。また、読み聞かせを行うことの魅力を実感しました。下記の写真は4日(金)の様子を撮影したものです。

【教員による読み聞かせの様子】



【1年の教室の様子】



【2年の教室の様子】

【3年の教室の様子】



【4年の教室の様子】



【5年の教室の様子】



【6年の教室の様子】

今回、校長は1年生の友達に読み聞かせを行いました。



【校長先生、おもしろいね】



【聞いたことがあるよ！】



【1年生の教室の工夫】

子供たちは担任以外の教員から、絵本等の読み聞かせをしてもらいました。読み聞かせを行うにあたり、私たち教員も絵本等を選ぶのにたいへん苦勞しました。それぞれのクラスの子供たちへ、熱いメッセージが伝わってくれることを願い取り組みました。

人権擁護委員さんによる読み聞かせ

11月10日(木)に、2名の人権擁護委員さんが来校し、1年生と2年生の子供たちを対象に「人権」を大切にしようというテーマの紙芝居(「ずっとともだちでいたいから」)を読んでもらいました。



【1年生の教室の様子】



【2年生の教室の様子①】



【2年生の教室の様子②】

自分を大切にし、友達も大切にしようとする気持ちをもつことは大切なことです。これからの学校生活でいろいろなことが起きることでしょう。そんなとき、今日聴いたお話を思い出し、自分なりに解決して行って欲しいと思います。

「ふうせんかづら」の皆さんによる紙芝居も行われました！

11月10日(木)に、4年生を対象に「ふうせんかづら」の皆さんによる紙芝居が体育館で開催されました。「深良用水」をテーマに読み聞かせをしていただきました。

深良用水は、箱根芦ノ湖の水を、トンネルを開け、新川を掘り堰をつくり、水を有効かつ平等に田に引き、秋の実りを待つという、当時の先人の技術と、自然からの恵みを最大限利用した歴史的大事業です。

「今から352年前、江戸時代に入って60年あまりの頃、この芦ノ湖の水をくり抜いて深良川へ落とし水不足に悩む29の村々を救おうと立ち上がった二人の男がいました。…」から物語は始まりました。

二人の先人による偉業を分かりやすく理解することができました。



【紙芝居の様子①】



【紙芝居の様子②】



【紙芝居の様子③】

「ふうせんかづら」の皆さんの紙芝居は、手作りのものです。絵が優しく描かれ、ストーリーも子供たちに伝わりやすいように工夫されています。

紙芝居を聴く子供たちの目は、きらきら輝いていました。これから先人の偉業に興味を抱き、「伝記」を読もうとする子供が現れることを願います。